

なかまと学びを深める授業づくり

なかまなビジョン

なかまとの対話

主体的な学び

授業に対するビジョン



なかまなビジョンとは

子どもが目を輝かせて、学習に意欲的に取り組むことができるようにするための、**なごやの授業づくりの重点**です。本市では、一人一人の学びを深めるために、なかまとの対話を大切にしたい主体的な学びを重視します。また、授業に対するビジョンとして、どのような力を付けるのかを明確にすることを大切にします。

なかまなビジョンは、アクティブ・ラーニングの視点を重視します。

なかま

【対話的な学び】

対話の中でも、特になかまとの対話を大切にします。

学び

【主体的な学び】

めあてと振り返りを大切にしたい主体的な学びを目指します。

ビジョンを

もった授業を通して

【深い学び】

課題解決的な学習を通して、どのような力を付けるのかという授業に対するビジョンをもち、深い学びを目指します。

なかまなビジョンの学習過程



なかまとの対話を大切にしながら主体的な学びを目指し、授業に対するビジョンをもって実践するために、次のような課題解決的な学習過程をモデルとして工夫してみましょう。

導入 問題意識を生み出す活動

めあてをつかむ

- ▶ 単元のゴールに向けての学習の見通しをもち、できるようにしたいことをつかむ
例：～について考えよう。
 - ▶ 明らかにしたいと思う問いをもつ
例：なぜ、～なのだろうか。
- ※ めあては、付けたい力につながるものであること



展開 追究する活動

自分の考えをもつ

- ▶ 一人一人が調べて発見をする
例：〇〇の資料から〇〇が分かった。
- ▶ 一人一人が自分の考えをもつ
例：〇〇と思う。理由は～だから。



なかまと対話する

- ▶ ペアやグループで考えを聞き合い、自他の考えのよさに気付くとともに、自分の考えを広げ、深める
例：〇〇さんの意見を聞いて、～ということに気付いた。
- ▶ 全体で話し合っ、考えを練り上げる
例：みんなの意見を聞いて、自分の考えが変わった。または、よりはっきりした。



まとめ 学んだことをまとめ、振り返る活動

まとめる
(学びの共有)

- ▶ めあてに対するまとめを、子どもが自分の言葉で表現する
例：～ということ学んだ。～ということが分かった。



振り返る
(次の学びにつながる
気付きや疑問)

- ▶ 個々の気付き・考えたことや、新たな疑問を、表現する
例：新しく分かったことや疑問を友達に説明しよう。
ノートに記述しよう。



めあてをつかむ

- ✓ **めあてを与えるだけでなく、子どもが自らつかむようにしましょう。**



単元のゴールを意識させ、そのゴールに向けて本時では、「何ができればいいのか」「何が分かればいいのか」を子どもに意識させます。それを通して、「～について考えよう」「なぜ～なのか知りたい」といった問いを、子どもから引き出すようにしましょう。

- ✓ **付けたい力（教科としての目標）を明確にし、授業のビジョンをもちましょう。**



学習活動を通してどのような力を付けるのかというビジョンを教師がもつと同時に、子どもももつことができるようにしましょう。そして、そのビジョンをもとに、子どもから引き出した課題や問いを、「めあて」として示しましょう。

例：×「報告文を書こう」

→○「中心を明確にして報告文を書こう」

自分の考えをもつ

- ✓ **一人一人の考えを引き出せるような、教材提示や発問の工夫をしましょう。**



子どもの思考を予想し、子どもが自ら気付いたり、考えたりできるような教材や発問を工夫しましょう。

また、考えをもてない子どもの姿を想定し、補助発問を考えたり、ヒントカードを用意したりするなどの、個別の支援策も立てておきましょう。

- ✓ **一人一人が自分の考えを書く時間を、確保しましょう。**



書くことは、思考作業です。一人一人が自分の考えを書く活動を位置付け、そのための時間を確保するようにしましょう。

この時、考えの根拠を明確にして書くことを、繰り返し指導することが大切です。

なかまと対話する

- ✓ 言語活動の充実を図りましょう。

例えば一斉授業だけではなく



ペアで意見を交換する



ホワイトボードを使って話し合う

付箋を使って話し合う
(発達段階に応じて)



ペアで、グループで、学級全体で、友達と考えを聞き合い、自分の考えを広げたり深めたりする活動を、積極的に位置付けましょう。

- ✓ 「何のために」「どのような手順で」対話するのかを、子どもが明確に意識できるようにしましょう。

友達の考えを聞き、もっといい考えがあったら、取り入れたいな。

司会者と記録者などの役割を決めよう。



〇〇さんの考えは、なるほどと思ったので、付け足してメモしておこう。



教師に「話し合いなさい」と言われてやらされるのではなく、子どもにとって聞きたいと思える対話の場になるように、対話の目的と手順を明確にしましょう。

まとめる・振り返る

- ✓ めあてに対するまとめを、子どもの言葉で整理しましょう。



めあて

対応していることが大切

まとめ

めあてについて本時で学んだことを、教師が一方的にまとめるのではなく、子どもから引き出して、子どもの言葉で整理していきましょう。

- ✓ 次の学びにつながる振り返りを工夫しましょう。



グループで話し合う。



ノートに2~3文で記述する。

振り返りの視点の例

- ・新しく分かったこと、考えたこと
- ・さらなる疑問や、もっと知りたいこと
- ・これからやってみたいこと

個々の気付きや、考えたことや、新たな疑問を、「友達に説明しよう」「ノートに2~3文で記述しよう」などと投げかけて表現させ、自分の学びを振り返ることができるようにしましょう。

それが、一人一人の学びの深まりとなり、次の学びへの意欲につながっていきます。

なかまなビジョンの基盤づくり

なかまなビジョンを取り入れた授業を行うには、次のような基盤づくりが重要です。

✓ 互いを認め合う学級の雰囲気づくり



☆何でも安心して話せ、互いに高め合うことができる学級集団を育てましょう。
☆学校生活アンケート (hyper-QU) 実施学年では、学級集団にかかわる結果をもとに、よりよい指導の在り方を工夫しましょう。

✓ 学習規律の確立

全ての子どもが集中して学ぶためには、授業中の行動規範がルールとして明確となっており、子どもが自らルールに沿って行動できることが大切です。

例 挙手・発言

全ての教科の授業を通して、以下のような発言のルールを徹底します。

- 教師 ▶ 「〇〇についてどう思いますか？」
- 発表者 ▶ (真上に挙手)
- 教師 ▶ 「〇〇さん」
- 発表者 ▶ 「はい」(返事をして静かに立つ)
- 聞き手 ▶ (私語をせず、発表者の方を向いて聞く)
- 発表者 ▶ (自分に視線が向いたことを確かめ、聞き手に向かって)
「〇〇〇〇と思います。どうですか？」



例 学習用具等

- ・休み時間に、次の授業の教科書やノートを準備する。
- ・始業とともに着席し、すぐに学習に取りかけられる用意をして、静かに待つ。
- ・ノートには、日付とめあてを書き、丁寧な文字で見やすく書く。



✓ 学習スキルの定着

子どもが話したり聞いたり、話し合ったりするためには、スキル(技術)が必要です。発達段階に応じて、段階的にスキルが身に付くようにしましょう。



例 論理的な思考を促す発言の仕方

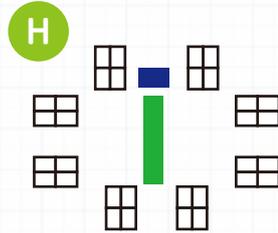
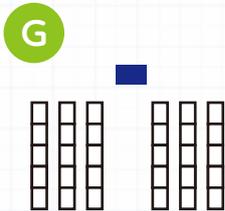
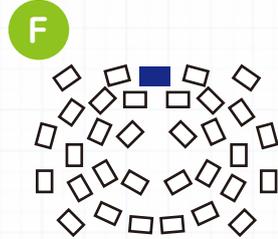
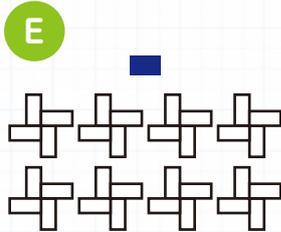
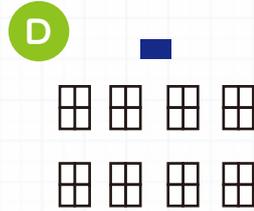
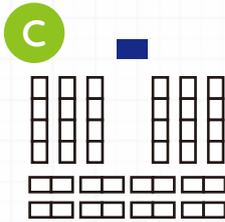
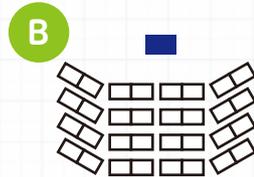
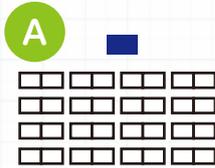
- 意見 ▶ 「～は…です。」「～だと思い(考え)ます。」
- 理由 ▶ 「その理由は～です。」「なぜなら、～だからです。」
「理由は、三つあります。一つ目は、…。二つ目は、…。三つ目は、…。」
「～なのは、…が原因です。」
- 賛成(反対) ▶ 「～に賛成(反対)です。」
- 付け足し ▶ 「～さんの意見に付け足します。」
- 比較 ▶ 「AとBを比べると、～が違います(同じです)。」「～は、…より…です。」
- 順序 ▶ 「まず(最初に)、～。次に、…。最後に、〇〇〇。」



学習活動に合った机の配置の工夫

学習活動に合った机の配置を工夫することで、なかまとの学びがより効果的になります。

机の配置の例



A 基本型・ペア型

すぐに全員が気軽にペアの話し合いができる。

B 注目型

資料を見ての話し合いや質疑タイムなどに向いている。全員の視点を集めやすい。

C コの字型

互いの反応を見ながら、話しあったり活動したりできる。

D グループ型

付箋紙や小型ホワイトボードなどを活用した話し合いに向いている。

E 風車型

互いに近い距離で、話し合いに参加できる。

F うずまき型

全員の視点が中央に集中しやすい。

G 立場討論型

二つの立場を決めて行う話し合いに向く。

H 調べ学習型

中央に資料を配置することができる。

授業改善のためのPDCAサイクル

なかまなビジョンの視点から、PDCAサイクルによる授業改善を心がけましょう。

